



TITLE:

齒齦腫

AUTHOR(S):

鳥潟, 隆三; 宮司, 克巳

CITATION:

鳥潟, 隆三 ...[et al]. 齒齦腫. 日本外科宝函 1932, 9(5): 1057-1061

ISSUE DATE:

1932-09-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/201810>

RIGHT:

臨床講義

齒 齦 腫 (Epulis)

(昭和7年6月20日講義)

教授 醫學博士 鳥 潟 隆 三 講 述

助手 醫學士 宮 司 克 巳 筆 記

醫員病歴ヲ讀ム：—

患者 仙〇ツ〇，14歳ノ女子，昭和7年6月17日入院。

遺傳關係及既往症： 特ニ述ブベキモノ無シ。

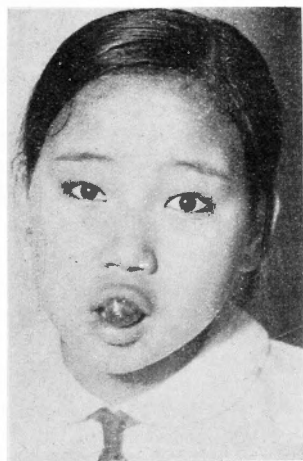
主訴 上齒齦ノ無痛性腫瘍。

現在症 昨年11月頃偶然上門齒ニ當ル前齒齦ニ超米粒大ノ無痛性腫瘍アルヲ認ム。何等自覺障礙ヲ伴ハズ。其後該腫瘍ハ漸次ニ大サヲ増シ本年1月頃ハ示指頭大トナリタルヲ以テ某齒科醫ニ手術的ニ除去サレタリ。然ルニ手術後2—3日ヲ經過シ再ビ同所ニ小ナル膨隆ヲ認メ、以來其膨隆ハ次第ニ増大シ現在ニ至ル。4月頃ヨリ輕度ノ打撃又ハ接觸ニヨツテモ腫瘍ヨリ容易ニ出血ヲ來ス。

食慾、便通、睡眠ニ異狀無シ。

教授「オ聽キノ通りデアリマス。今日迄1回切除シテ貰ツタガ同ジ場所ニ同様ナモノガスグ出來タト云フ事ハ即チ再發 Recidiv デアリマスガ此ノ再發シタト云フ事ハ……？」

第 1 圖



學生「此ノ腫瘍ハ惡性ノモノデアル事ノ一ツノ徴デアリマス。」

教授「左様、此ノ再發ノ事實一ツデ此ノ腫瘍ハ惡性ノモノト診斷シテ誤ハナイノデアリマフ。主訴ニヨリ局所ヲ診マスト……？」

學生「上齒齦ニ一ツノ膨隆ヲ認メマス。」

教授「即チ上唇ト門齒トノ間デアリマシテ大サハ拇指頭大、形ハ全クノ圓形、丁度繫帶ヲ中心トシテ其基底ハ正中線ノ左右ニ跨リ相當廣ク直徑ハ約2cm餘。其表面ノ色ハ……？」

學生「一般ニ唇ニ被ハレテ居ル處ハ淡紅色デ外部ニ露出

シテ居ル部分ハ灰白色ノ苔被ハレテ居リマス。」

教授「ソレカラ……………」

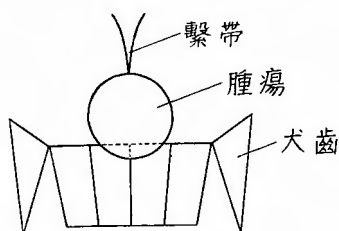
學生「腫瘍ノ表面ニハ處々血液ヲ混ゼル分泌物ガ認メラレマス。」

教授(患者ノ顔ヲ見ナガラ)「患者ノ一般狀態ハドウデアリマスカ。先ヅ目立ツ事ハ……………」

學生「著シク貧血性デアリマス。」

教授「エ、全身ノ皮膚ハ甚ダ蒼白、ソシテ可視粘膜モ貧血性デアリマス。血液検査デハ血色素量ハザーリー氏價デ49ヲ示シテ居リマシタ。病歴デモオ聽ノ様ニ此腫瘍ニハ強度ノ出血性ガアリマス。御覽ナサイ。腫瘍上ノ黒ク見エル斑點ハ血液ガ凝固シタモノデアリマス。勿論此貧血ハ小量宛デハアルガ頻回ノ出血ニ起因シテ居ル事ハ明白ナ事デアリマス。尙視ル可キ事ハ……………」

第 2 圖



第 3 圖



學生「……………」

教授「腫瘍ハ異狀ヲ搏動ヲ示シマセン。此ハ陰性所見デアリマスガ診斷上一ハ必要デアリマス。次ニ觸診スルト……………」

學生「熱感ハアリマセン。」教授「硬サハ……………」

學生「一般ニ彈力性硬、處々彈力性軟ノ處ガアリマス。」

第 4 圖



教授「周圍トノ關係ハドウデアリマスカ？」

學生「腫瘍ノ周圍ハ全ク健康デアリマシテ異狀着色、發赤、血管ノ擴張、浮腫ハ認メラレマセン。ソシテ腫瘍ノ境界ハ鮮明デアリマシテ健康部ヘハ莖(Stiel)ヲ以テ連ナツテ居リマス。」

教授「全ク其ノ通り。」(消息子ヲ持チ一々指シナガラ)「此ガ右ノ第1ノ門齒、此ガ左ノ第2ノ門齒、此等ト腫瘍トノ間ニハ消息子ヲ挿入スル事が出來マス。此ノ事ヲ腫瘍ハ(黑板ニ圖解〔第2圖〕シナガラ,) rüsselartig (嘴狀)ニ突出シテ居ルト申シマス。有莖性デアルガ故ニ腫瘍ハ基底ノ所デ容易ニ動カス事が出來又廻轉スル事も出來マス。」

次ニ硬口蓋デハ…………門齒骨 (Os incisivum) ノ所ニハ何等變化ヲ認メマセン。故ニ此ノ變化ハ極メテ表層ノモノデアリマス。ソコニアル門齒ヲ觸ツテ見マスト…………？」

學生「門齒ノ中、左右共第2門齒ハ堅固デスガ第1門齒ハ何レモ齶蝕サレ可動性。殊ニ左第1門齒ハヨク動キマス。」

教授「(「ブラクチカント」ヲ見ナガラ)「デハ此腫瘍ハ一體何物デアリマセウカ…………？」

學生「…………」

教授「他ニ此ノ様ナモノハアリマセン。齒齦ニ生ズル惡性腫瘍デ即チ…………Epulis デアリマス。」

教授 (一般學生ノ方ヘ向ヒナガラ)「諸君! Epulis ト申スノハ…………Ep トハ上ニト云フ事。例ヘバ Epithel ト云ヘバ上ヲ被フト云フ意。Ulon トハ Zahnfleisch 齒齦ノ事。デ Epulis ト云フノハ auf dem Zahnfleisch sitzend ト云フ意デアリマス。即チ Epulis ハ齒齦ヨリ生ズル腫瘍デアリマス。多クハ此ノ場合ノ如ク有莖性デアリマスガシカシ廣イ基底ヲ有スル事モアリマス。本例ノ如ク齒齦ノ繫帶ヲ中心ニ正中線上ニ生ズル事モアリマスガ時ニハ正中線以外即チ側方カラ發生スル事モアリマス。又左右兩側ニ對稱性ニ生ズル事モアリマス。Epulis ハ齒槽ノ外側デ前齒部ニ最モ多ク發生スルモノデアリマス。」

諸君! Epulis ハ眞性ノ惡性腫瘍デアリマス。惡性腫瘍ガ存在スル時ニ此ニ關聯シテ診ル可キ事ハ…………？」

學生「轉移ノ有無デアリマス。」

教授「此ノ患者デハ…………？」

學生「配下淋巴腺ヲ檢スルモ少シモ轉移性腫脹ハ認メラレマセン。」

教授「惡性腫瘍ガ存在スル時ニ轉移ノ仕方ニ二通りアリマス。一ツハ淋巴系ニ依ルモノ此ノ際ハ配下淋巴腺ノ腫脹ヲ來シマス。モ一ツハ血行ニ依ルモノ、此ノ血行ニヨツテノ轉移ヲ發シ易イ惡性腫瘍ハ何デアリマスカ…………？」

學生「肉腫デアリマス。」

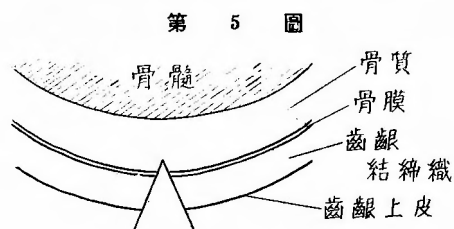
教授「左様。癌腫ヨリモ肉腫デアリマス。此ノ患者ニハ惡性腫瘍ガ存在シテ居ルニモカ、ワラズ何處ニモ轉移性腫脹ヲ證シマセン。」

此ノ Epulis ト云フノハ先ニモ述べタ様ニ元來齒齦部ヨリ發生シタ限局性腫瘍ノ總稱デアリマシテ、組織學的ニハ多ク肉腫デアリマス。時トシテ纖維腫性ノ事モアリマス。肉腫デモ巨大細胞肉腫、紡錘形細胞肉腫、圓形細胞肉腫等何レニシテモ大ナル細胞ガ認メラレマス。其故ニ Epulis ハ惡性新生腫瘍ノ特徴トシテ非常ニヨク再發ヲ繰リ返シマスガ然シ此ハ決シテ淋巴轉移ヲ起シマセン。又周圍ヲ破壊スル性質モアリマセン。此ハ同ジ肉腫デモ身體他部ニ於ケルモノトハ餘程相違スル所デアリマス。發育ハ組織學的構造ニヨリ緩急

ハアリマスガ一般ニ緩徐デアリマス。

但シ Epulis ノ内デモ例外トシテ黒色肉腫 (Melanosarkom) ガ來ル事ガアリマス。此ノ黒色肉腫ハ肉腫ノ中デモ最悪性ノ者デアツテ此際ハ早期カラ配下淋巴腺ニ轉移ヲ起シマス。

一般ニ肉腫ノ轉移ハ先ニ述べタ様ニ血流ニ依ルモノトサレテ居リマスガ黒色肉腫ダケハ例外デ配下淋巴腺ニヨク轉移ヲ來シマス。勿論黒色肉腫以外ノ肉腫デモ長キ經過ノ間ハ配下淋巴腺ニ轉移ヲ來シ得ルモノデアリマス。

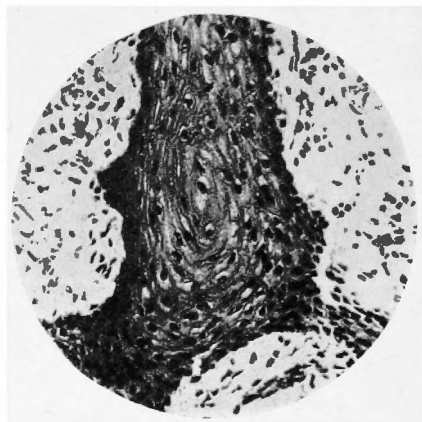


特有ナ發生個所ハ (圖〔第5圖〕ヲ畫キナガラ,) 齒槽突起骨膜カラデアリマス。時ニハ齒齦結締組織カラ生ズル事モアリマスガ多クハ骨膜カラデアリマス。其故ニ治療法トシテハ骨膜ヲモ除去シナケレバナリマセン。多ク再發ヲ繰リ返スノハ此ノ操作ガ不充分デアルカラ

デアリマス。即チ骨膜ニ環狀切開 (Circumcision) ヲ加ヘ更ニ齒齦骨ノ皮質層ヲ鑿除シナケレバナリマセン。本症ハ統計ニヨルト女子ニ多ク年齢ハ20歳乃至40歳トサレテ居リマス。

モーツ Ulon ノ附イタ名デ Epulis ニ對立スルモノニ Parulis (齒齦瘍) ト稱スルモノガアリマス。此ハ慢性炎症性腫脹デ顎骨膜炎, 齒齦骨膜炎ノ結果トシテ腫瘍様觀ヲ呈シマス。從ツテ此腫脹ノ内部ニハ膿及ビ化膿菌ガ存在スルノデアリマス。Para ハParasit, Parabiosis ナドノ如ク側, 寄等ノ意デアリマス。

第 6 圖 腫瘍組織顯微鏡寫真



後記 腫瘍切片鏡檢ノ結果處々ニ結締組織ヲ認メー見表皮性細胞増殖ナルカノ所見 (第6圖)ヲ呈セルヲ以テ例ニヨリ肉腫ト癌腫トノ鑑別診斷トシテ Impedin 現象ノ有無ヲ檢シタルニ Impedin 現象陽性ノ結果ヲ得タリ。即チEpithel 様細胞ガ認メラレテモ, 本齒齦腫モ亦肉腫性デアル事ハ此ノ如ク Impedin 現象ノ陽性ナル事ニヨツテ明白ナリ。

從來ノ検査ニヨレバ人間肉腫ハ Impedin 現象ヲ示スシ癌腫ハ示サズ, 胃癌ノ淋巴腺轉移ニテ一見肉腫ノ觀アリシモノモ Impedin

現象陰性ナリシニヨリテ肉腫ニ非ザルコトヲ知り得タリ (本誌第9卷第3號昭和7年5月1日發行第647頁參照)。

本腫瘤ヲ以テノ Impedin 現象検査結果

最大喰菌子ニヨル比較

生煮ノ別	抗 原 量				對 照 食鹽水
	0.1蚝	0.2蚝	0.4蚝	0.6蚝	
生	51	79	78	47	33
煮	53	87	103	90	
比率	生	50	77	76	32
	煮	51	84	100	

本腫瘍ノ主要部ハ明白ニ病的ニ増殖セル Epithel 様細胞ナリ, シカモ Impedin 現象陽性ナリ。此點ハ注目ニ値ス。動物惡性腫瘍ニテハ白鼠癌ハ明白ニ Impedin 現象ヲ示セリ(青柳安誠), 而シテ白鼠癌ナルモノハ發生ノ初期ニ於テハ肉腫性ノモノナリ。